

ほのほのだより

～ 伝えていきたい日本のお話 ② ～

今月も、日本のお話をお薦めしたいと思います。日本の文化や、日本語の正しく美しい言葉を大切に読んで聞かせていきたいと思っています。乳児さん向けには、一緒に読める絵本を紹介します。

「ないた赤おに」(4・5歳児向け)

出版社：TBS ブリタニカ
文：浜田 広介
絵：おぼ まこと

教科書にも載ったことのあるおはなしです。1人の赤おにが「人間たちと仲良く暮らしたい」「役に立ちたい」と考えます。なかなかうまくいかず、悩んでいると青おにが提案をします。2人は実行するのですが、その事により代償が生じ、青おにはその山に住めなくなってしまいます。青おにが最後に残した手紙より、友情とは何か？正しい事とは何か？を考えさせられる一冊です。



「かぐや姫」(幼児クラス向け)

出版社：TBS ブリタニカ
文：舟崎 克彦
絵：蓬田 やすひろ

竹取の翁が竹の中から見つけた小さな女の子。ところが、この世のものではないかぐやひめは、月からの迎えがくると、月の世界へと帰っていきます。幻想的な世界を豊かに想像できるよう、丁寧に読んでいきたいと思います。子ども達がお月様を見上げ、お話を思い浮かべる事が出来たらいいですね。



「へんしん トンネル」(乳児クラス向け)

出版社：金の星社
作・絵：あきやま ただし

不思議なトンネルがありました。このトンネルをくぐると、なぜか変身しちゃうです。「かっぱ」さんがトンネルをくぐると、元気な「おうま」さんに…??子ども達と一緒に、声を出して読んでいます。

